



こうべ子どもにこにこ会ニュース



巻頭言

平山 直樹 さん (本庄小学校長)

本庄校区の歴史とともに



深江文化村に現存する住居

本 庄小学校の校歌に「武庫の山々 眺めは開けて
浜の浦風 のどかに吹く里 歴史を語るか
青木の舟歌 深江の老松 枝ぶりなつかし」と
歌われているように本庄小学校の校区は非常に景観がよ
く、また、歴史も古く、今年創立115周年を迎えます。親
子三代にわたって“本庄っ子”だといわれるご家庭も少
なくありません。以前、神戸深江生活文化資料館の館長
を務められた大國正美先生がご執筆された「古地図で見
る神戸」昔の風景と地名散歩」という著書にも詳しく
青木や西青木、深江の村々のことが記されており、
阪神電鉄から発行されている「阪神手帳」阪神電車でい
くまち歩き本」のなかにも深江と青木は「漁師町と文化
人が集い二つの個性が共存した開放感に満ちた土壌」と
して紹介されています。

もともと史跡を見て歩くことが大好きなので校区内を
ブラブラと歩いていきますと深江浜町に通じるマンション
にペルーの国旗が揚がっていたり、中南米の方々のため
の小さなスーパーがあったりと意外なシーンを見かけま
した。また、深江浜町には多数の中南米の方が働いてお
られます。『どうしてなんだろう?』という気持ちがあ
くむくと頭をもたげるとじつとしておれない性格です。
いろいろと地域の方にお話を聞いて回ると意外なことが
分かりました。

「深江文化村」ってご存知でしょうか。ロシア革命を

逃れて来日したロシア人達が関東大震
災を経て、関西に移住して深江文化村
が誕生したのです。大正末期頃に深江
の一角に洋館が続々と建ち、有名な音
楽家のメッテルが昭和2年に住居を構
えると朝比奈隆さんがメッテルを慕っ
て音楽を学びに来られていたそうです。
なぜこのあたりに住まわれたかという

と風光明媚で祖国を思わせるからだということだったそ
うです。そのような流れがあったからなのでしょう。か。
現在の東灘区南東部にはブラジル・ペルーなど、南米の
国々から来日された人々が年々増えつつあります。本庄
小学校でも、これらの国々から来日した子ども達は今
までも少数在籍していましたが、その人数は年々増える
傾向にあります。日本での生活にも随分と慣れ、日常の
会話はある程度話せるようになっていますが、学習にな
ると国語や社会科などの授業内容を十分に理解すること
は簡単なことではありません。教科独自の用語は日常会
話ではふれることの無いものですし、歴史や文化にまつ
わる事柄の中には、日本人にとっては当たり前でも、彼
らにとっては目にしたことも耳に聞いたこともないとい
うものがその大半です。そんな彼らが日本の学校で学ぶ
ことは、想像以上に大変なことだと思います。

そのような状況のなかで子ども達に、日本語指導や教
科学習支援を行ってくださっている「こうべ子どもにこ
にこ会」の方々に協力をいただいて、日本語の指導や母
語の資質維持など子ども達を中心とした学習の場をもつ
ことができています。私達、教員が時間を割いて関われ
ないなか、このような活動に助けられていることは感謝
です。「こうべ子どもにこにこ会」との交流は、私達が様々
な人々が暮らすこの地域の豊かな文化に目を向けること
のできる貴重な体験の機会となっています。子ども達の
学級担任だけでなく教職員一同がこの活動に共通理解を
図り、自分を見つめなおす機会でもある子ども達との交
流により積極的に関わっていききたいと思っています。そ
うすること、この「こうべ子どもにこにこ会」の方々と地域
住民の皆様とともに子ども達を支えるものとしてこれか
ら、その責任をしっかりと果たしていかねばならない
と考えています。

先輩に聞こう体験談

この度、私は子どもたちに自分の高校入学の時の体験や勉強法などについてお話をさせていただきました。私にはとても懐かしい話であり、当時を振り返って新たに発見したりすることもあり、とても貴重な時間を過ごさせていただきました。このような場を作ってくださった方々に感謝しております。ありがとうございました。

子どもたちに自分の体験談を話すという機会があまりなくて、とても緊張していました。いざ話してみると、違った視点で当時を思い出させることができ、高校の入学前のときはがむしゃらになって勉強して、高校卒業手前に必死に大学を探しながら将来に自分自身は何をしたいのかを考えることで、今の自分は出来上がっているんだな、としみじみ思いました。

私自身の話をすることで、子どもたちにいい刺激を与えたのかどうか分かりませんが、いいきっかけになって、これからの彼らの進路などの役に立てればいいなと願っております。そして、少しでも前向きに進んで勉強してくれたらなと思っております。

全体的に話を通して、私が伝えたかったことは二つほどありました。

一つ目は、「あきらめないこと」。これは日本語勉強に対しての諦め、高校や大学等に入学できないことへの諦め、日本語がわからなくて授業についていけないという諦めなどがあると思います。個人の悩みも多々あると思いますが、最初から決めつけて、

「日本語できないから…」「どうせ私には無理…」と考えるのではなく、「頑張ってやろう！」「先生に聞こう！」と前向きに今自分に出来ること、そして、今自分の周りの先生などを巻き込んで、より自分の力にすること。

二つ目は「時間を有意義に過ごすこと」。これはとても難しいとは思いますが、勉強をすべき時間、つまり、授業などはしっかりと聞くこと、わからないことはすぐに先生や友達やボランティアの人たちにわかるまで質問をすること。もちろん、勉強することはとても大事なことです。同時に遊ぶ時間や、リラックスする時間も必要だと思います。例えば、私は漫画が好きだったので、小学校から読み始めました。これは日本語の勉強も兼ねてだったので、とてもわかりやすく、絵があるからどんな話なのかも簡単に理解できるし、そして、ふりがながついているので、漢字が覚えやすくなり、文章などにも力をつけることが出来たと思います。そして、友達との遊びを通して、発信することで、日本語の話し方などの勉強にもなると思います。

これはほんの私の一例で、誰にでも出来ることなのですが、後は子どもたちが自分たちにどうシフトさせるのかがカギなのではないかと思います。

このような体験談を話させていただき、子どもたちの不安や悩みなどを少しでも拭えたのなら、私としてはとてもうれしいことです。



しばらく前、にこにこ会にやって来た先輩のアリシアさんのお話を聞きました。その中で心に残ったお話は、アリシアさんがしていた方法です。授業中は先生の目をしっかり見て話を聞き取り、分からないところは必ず質問し、分かるまで教えてもらうことです。その上、家でもしっかり復習をしたそうです。

わたしは、授業中はよく聞いているけれど、分からないことは次のにこにこ会で聞こうと思い後回しにすることがあります。

でも、やっぱり分からないことは先生にどんどん聞いてその場で解決する方がいいなと思いました。わたしもアリシアさんのようにがんばりたいと思います。(UL)

「阪神淡路大震災から十九年が、たち
ました。今でも、神戸には、まだ、くろ
い人（人）がいます。十九年前のこと、思
い出して、神戸の人（人）もたくさんいます。そ
の思いをのり（のり）えて、今の神戸のまちは、もとのよ
うに見え（見え）ます。でもまだ植（う）えている家（いえ）、まだ
家にすんでいる人が神戸の中（なか）にもいます。今（いま）思うと、
「阪神淡路大震災（はんしんたんろだいしんさい）」は（は）とても（とても）こわい（こわい）地震（じしん）だ
った（た）と思（おも）いは（は）あ（あ）る（る）でも、神戸（ごうど）のまちは、も
と（もと）のよ（よ）う（う）にな（な）る（る）、みんな（みんな）は（は）、また（また）、こゝ（ここ）にお（お）こ（こ）に（に）生（い）き
て（て）い（い）く（く）こ（こ）ろ（ろ）づ（づ）ま（ま）す（す）。まだ（まだ）、神戸（ごうど）のまちは、
ふ（ふ）、こ（こ）う（う）中（ちゆう）です（す）。でも（でも）、みんな（みんな）が（が）ま（ま）ん（まん）ま（ま）ん（まん）と（と）作（つく）った（た）ま（ま）ちは（は）、未
来（みらい）に（に）つ（つ）な（な）が（が）て（て）い（い）く（く）人（ひと）だ（だ）と思（おも）います（す）。今（いま）は（は）、
こゝ（ここ）にお（お）こ（こ）に（に）見（み）え（え）ま（ま）す（す）が（が）、さ（さ）び（び）しい（い）思（おも）い（い）を（を）した（た）人（ひと）、が（が）や
く（く）を（を）失（う）した（た）人（ひと）を（を）は（は）げ（げ）ま（ま）す（す）た（た）め（め）に（に）神戸（ごうど）は（は）、今（いま）も
生（い）き（き）て（て）い（い）る（る）人（ひと）だ（だ）と思（おも）は（は）る（る）ま（ま）ち（ち）を（を）、こ（こ）う（う）に（に）つ（つ）な（な）が（が）
た（た）人（ひと）たち（ち）へ（へ）、あ（あ）り（り）が（が）た（た）い（い）づ（づ）せ（せ）い（い）ま（ま）か（か）。

もし、にんじやになれたら
わたしは、もしにんじやになれたり

へんしんしたいです。

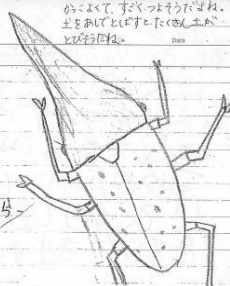
なびならび なかやませんせいになつてひり
させたいです。

みながをひりさせたいです。よくついに
なびませんせいが、ふたりあったらみながひります。

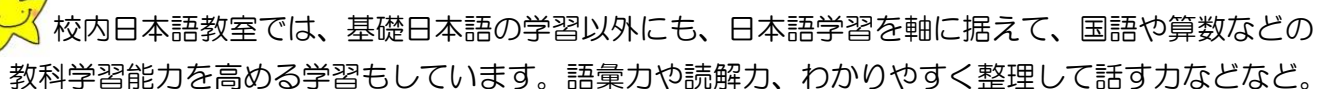
ほくが すきな虫

ばくは、ヘラクレスオオカブトがすきです。
なぜならば、つよで、かっこいいからで
す。
みせて、ヘラクレスオオカブトを、みました。
足で、つちをとばすのが、かっこよか
たです。
かいたか、たけど、おかげが、いい、は、いい
かえませんでした。

きれいなじり とむじょうすにかけあした。かじりいんはラクスオオガバトがみりみたりあが、つじりう



(SY)



3

本庄中学校で「多文化学習会」が始まりました !!

東灘区深江地区の本庄中学校で、今年度、新たな試みとして、外国につながる生徒のための「多文化学習会」が始まりました。

「多文化学習会」とは、本庄中学校のご理解とご協力のもと、中学校での学習に困難を感じている子どもたちがこうべ子どもにこにこ会の支援者と共に学習できる場を中学校の中に設けていただいたものです。6月9日から、毎週月曜日の5, 6時間目と放課後の時間に、まずは7名の生徒が参加してスタートしました。

こうべ子どもにこにこ会では、3年前より神戸市教育委員会の日本語指導支援者派遣事業の一環として、本庄中学校区のふたつの小学校と連携しながら校内日本語教室をコーディネート、実施してきましたが、ようやく学習の姿勢ができてきたかなというところで小学校の卒業を迎え、中学校に進学してしまった生徒や、中学校になってから来日した生徒などのフォローが課題となっていました。

にこにこ会ではこれまでも、週に2回の放課後日本語・教科支援教室で、そうした中学生の学習支援を行ってきましたが、日本の子どもたちにも中1ギャップという言葉があるように、中学生になると、一気に難しくなって授業の体制も変わる中学校の学習についていくのはとても大変なことです。部活動と勉強との両立も難しい課題です。

小学校1年生から中学校3年生までが共に学習し、仲間や先輩を身近に感じることでできる放課後日本語・教科支援教室が子どもたちにとっての居場所でもあり、貴重な学習の場であることは間違いありませんが、そのうえで、子どもたちにとって、一日の大半を過ごすとても大切な場である学校の中に、自分の力を伸ばせる学習環境、自分の居場所があることもとても大切なことです。「多文化学習会」は、学びの場である学校の中で集中して学習する貴重な機会になるでしょう。このような場を設けてくださっ



た本庄中学校には、ただただ感謝の一言です。

中学生には高校進学という待ったなしの目標があります。タイムリミットのある中で、どこまで一人ひとりの子どもの持てる力を引き出し、伸ばすことができるのか。できることには限りがありますが、「多文化学習会」が子どもたちの明日につながる場となればこんなに嬉しいことはありません。

にこにこ会が求める多面的な支援に、「多文化学習会」という新たな1ページが刻まれました。これまでも本庄中学校とは学期毎の情報交換会を通じて連携を深めてきましたが、「多文化学習会」の実施によって、学校と家庭と地域がこれまで以上に有機的につながり、一人ひとりの子どもを中心として地域全体で子どもたちを支える環境が整っていくこと、そして、子どもたちの生活が全体として輝きを増し、自分らしく、誇りを持って生き生きと過ごせる毎日となることを願っています。

学習会初日、子どもたちはどことなく嬉しそうに教室に現れ、放課後日本語・教科支援教室で見慣れた支援者さんの顔を見ると、あたかもずっと以前からそこで学習していたかのように自然に学習会に溶け込んでいました。校長先生や教頭先生、担任の先生方も幾度となく様子を見に来てくださり、子どもたちも集中して学習に取り組むことができていました。まだまだ始まったばかりではありますが、せっかく始まった試み。今後も息長く続けていけるよう、中学校の先生方ともご相談し、模索しながら指導を深めていきたいと考えています。

📁 2013 年度下半期 イベント報告



キッザニア甲子園 長尾 卓郎さん（関西学院大学社会学部社会学科）

昨年度は10月22日、行事の一つとしてキッザニア甲子園へ出向きました。当会に参加して間もなかった私にとって、学習時の様子とはまた違い、心からアトラクションを楽しむ子ども達の姿が新鮮かつ印象的だったことを覚えています。またキッザニアは職業体験型テーマパークです。「作業着って、めっちゃ暑い。」子ども達からこんな発言も飛び出しました。ステージモデルや食品製造などの職業を遊び感覚で身近に感じつつも、遊びを越えたリアルな仕事を体感する機会にもなっていたと感じています。どんな自分になりたいのか、日本にはどういった職業があるのか、浮かんでくる将来の自分の姿、職業疑似体験を通して無意識的に、無限に広がるそんな未来の数々を想像できる機会を提供してあげられる企画になっていたと感じています。そしてこうした経験の一つ一つが成長期の子ども達の成長過程において、少なからず良い影響になっていけばと願うばかりです。



Navidad(Clase de español) ～クリスマス会（スペイン語母語教室）

松下 朋子さん（事務局/スペイン語母語教室コーディネーター）

スペイン語母語教室では、毎年、参加児童の保護者のご協力のもと、手作りケーキや美味しいお菓子を食べながら、楽しいクリスマス会を行っています。

昨年度は、クリサキ ロサ先生（ペルー）が12月に事故で怪我をされ、3週間休まれましたが、治療中は本庄小学校の保護者でもある津田クリスティーナさん（アルゼンチン）に代講をお願いして、教室もクリスマス会も、無事に開催することができました。

クリスマス会には本庄小学校の先生方も参加してくださり、手作りのケーキを食べながら楽しいひとときを過ごしました。お休みされていたロサ先生も松葉杖をつきながら参加してくださり、子どもたちはとっても喜んでいました。



📅 2014 年度主な活動計画

予定行事名		実施時期	備考	開催場所
放課後日本語・教科支援教室		通年	木=小学生（16：00-17：30） 土=小中学生（16：00-18：00）	本庄地域福祉センター
校内日本語教室		通年	本庄小=火曜日、東灘小=木曜日	本庄・東灘小学校
多文化学習会		6月9日～通年	毎週月曜日 5、6 時間目 & 放課後	本庄中学校
スペイン語母語教室		通年	火曜日（15：00-17：00）	本庄小学校
居場所作り	夏休み宿題教室	8月第1週	関西学院社会学部大岡ゼミ共催	本庄小学校
	にこにこパーティー	12月第3週予定	保護者の方との交流	本庄地域福祉センター
	先輩の話を聞こう	12月予定	にこにこ会の先輩から進路や学習の仕方について学ぶ	本庄地域福祉センター
イベント・研修会・地域との交流	多文化フェスティバル深江	10月12日（日）	多文化キッズカフェ「NIKONIKO」の来店	深江会館
	キッザニアグローバルオトモダチナイトへの参加			キッザニア甲子園
	地域の工作隊による実験・工作教室の実施(夏休み宿題教室期間中)			本庄小学校
	本庄児童館との交流（七夕文化交流、節分イベントなど）			本庄地域福祉センター

紹介コーナー

校内日本語教室講師のみなさん（敬称略）



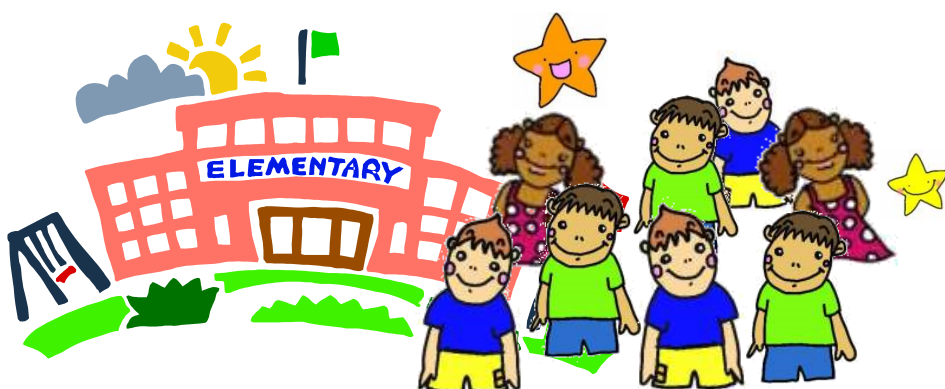
東灘小学校担当（石井真未枝・辻村文子・野村春美）



本庄小学校担当（辻村文子・福井武司・三木知津子・石井真未枝）

今号では、校内日本語教室の講師の皆さんをご紹介します。皆さん、知る人ぞ知る大ベテランの日本語教師の皆さんです。毎週毎週、様々な工夫を凝らした授業で子どもたちと向き合ってくださいています。

今は産休でお休みされていますが、一昨年度の3学期から、正多宏美先生にもご指導いただいています。





**会員になって私たちの活動を
支えてください。**

***正会員【年会費 5000 円】 個人**
総会での議決権がある会員です。

***サポーター会員【年会費 1 口 1000 円】**
個人1口以上・法人10口以上
経済的な支援を頂く賛助会員です。

※寄付也大歓迎です♪

郵便振替 0090-4-251298
こうべ子どもにこにこ会

2013年度決算報告（単位：千円）

収入		支出	
繰越金	425	活動事業費	144
運営協力金	629	事務管理費	544
会費	147	人件費	996
保険	40	交通費	644
助成金	1,170	会場費	124
収益	17	研修費	14
寄附金	7	活動準備金	162
その他(収)	193		
合計	2,628	合計	2,628

☆ ご支援ありがとうございます !!

<正会員・サポーター会員>

長嶋昭親 佐野末夫 延原臣二 大岡栄美 乾 美紀 酒井滋子 竹中夕紀 北村広美
 有馬久美子 明石いずみ 小淵玲子 高木重幸 松田陽子 田中香織 柴田くみ子 大西恭子
 横山文夫 松田陽子 辻本久夫 田中康夫 中畠孝幸 青木由美 二階堂裕子 松下朋子
 森田正純 匿名ご希望1名

順不同/敬称略

皆様のご支援により、にこにこ会の活動は成り立っています。今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

なお、その他、備品なども有志のみなさんから頂いています。厚く御礼申し上げます。



日本語・教科支援ボランティア募集

放課後教室のボランティアが大変不足しています！

それぞれの子どもの学習能力やニーズに対応し、主に日本語（国語）・数学（算数）・英語を1対1でサポートしています。原則として日本語でサポートを行い、勉強会などに参加しながら行いますので、経験等は不問です。やる気のある方歓迎です。

☆活動時間：木・土 16:00～18:00 ☆活動場所：本庄地域福祉センター

※ボランティア オリエンテーション（要予約）に参加してみませんか？

オリエンテーション担当 松下 までお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先 078-453-7440 Email: kobekodomo_nikonikokai@yahoo.co.jp

※その他、事務ボランティアなど、教材作成や発送・入力作業等、可能な範囲でお手伝いいただける方、募集中です。お問い合わせ、お待ちしております。



スタッフ紹介



事務局（森田正純）：住吉の生きがいしごとサポートセンター神戸東（通称：ワラビー）の紹介で事務担当として2012年12月から参加しています。しかし、翌年12月から体調を崩し、半年休みましたから、にこにこ会は満1年。ようやく流れが把握できるようになりました。にこにこ会の活動が少しでもスムーズになるよう活動できればいいな、と思っています。第1、第3月曜と毎週火曜日事務所に詰めています。趣味はパソコンと音楽。前者は阪神SITAクラブとして仲間とパソコン教室を、後者としては関西学院グリークラブOB団体”新月会”に所属しています。

<編集後記>

復刊第2号、通期10号をようやくお届けできることになりました。今後年2回の発刊を守っていきたいと思っています。お目通しを願い、ご意見など頂ければ幸甚です。

本年7月から事務局の体制が変わります。長年代表を務めて参りました長嶋昭親が退任、新たに地域コーディネーター、運営委員を務めておりました酒井滋子が就任いたします。また、事務局長も発足以来実務面を支えて参りました田中香織が一身上の都合で退任、変わってこれまで田中を支えて参りました松下朋子が就任します。

引き続きご指導、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

こうべ子どもにこにこ会

〒658-0022

神戸市東灘区深江南町4丁目12-20-201

電話 & FAX : 078(453)7440

メールアドレス：

kobekodomo_nikonikokai@yahoo.co.jp

ホームページ検索

こうべ子どもにこにこ会
(<http://nikoniko.qee.jp>)

